

練馬区外郭団体中期経営計画の達成状況

団体名	公益財団法人 練馬区文化振興協会	団体所管課	地域文化部文化・生涯学習課
-----	------------------	-------	---------------

経営計画期間	令和 2 年度 ～ 6 年度	※計画期間は5年間(令和2～6年度)、後期年度別計画は2年間(令和5～6年度)
--------	----------------	---

団体の目指す将来像

区との密接な連携のもと、文化芸術施策の一翼を担い、公益財団法人ならではの柔軟性・専門性・公共性を生かした事業が展開されている。

区の外郭団体としての一貫性や継続性の強みを発揮しながら、区に居住する音楽家や芸術家、区民の多彩な文化活動などつながり、連携、協働して魅力的な文化芸術事業が展開されている。

取り組みを進めるうえでの「基本的方針」

・区政を担うパートナーとして、行政を補完・代替する役割を果たし、区の文化芸術施策と連携・協力し、区政に貢献する。

・収益事業の実施や外部資金の獲得などの自主財源の確保に努め、事業活動に再投資し、活動の幅を広げる。

・各施設が魅力ある事業展開と円滑な施設運営を行い、効果的・効率的に事業を実施できるよう組織・人員体制を再編する。

区が外郭団体に求めるもの

区との密接な連携のもと、区の文化芸術施策の一翼を担い、公益財団法人ならではの柔軟性・専門性・公共性を生かした事業を展開すること。

区立施設の指定管理者として、施設間の連携を図りながら適切な管理運営を行うこと。

達成状況の評価

外郭団体は、経営計画の取組や達成状況を毎年度、評価する。団体が行う達成状況の評価は、つぎの3段階で評価する。

「A」 計画以上に進んだもの

「B」 概ね計画どおりのもの

「C」 計画どおりに進んでいないもの

団体所管課の評価

団体所管課は、年度終了後、団体の取組や達成状況などから、年度の評価を行う。

事業1	練馬文化センター/大泉学園ホール
取組内容	①著名なオーケストラ・演奏家によるクラシックコンサートを練馬文化センターで定期的に実施する。 ②感染症対策のため実施を見送っていたアトリウムミニステージを再開させるとともに、区内各所に拠点を設け、区民に身近な場所で気軽に音楽に触れられる機会を提供する。 ③「能と狂言シリーズ」(新規)、「万作・萬斎狂言の会」、狂言師派遣事業、能楽師派遣事業(令和4年度開始)を実施する。 ④区民等に対して、幅広い分野の公演事業の機会を提供するため、施設の稼働率を向上する。

目標①	質の高いクラシックコンサートの実施 アンケートにおける来場者の満足度95.0%			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	95.0%	95.0%	95.0%	
実績	90.3%	91.4%	91.2%	
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	令和3年度に続き2公演を実施。両公演ともチケットは完売し、来場者数は増えた。アンケートの母数が増えたため、満足度は若干下がったが、ミュンヘン国際音楽コンクール優勝者による質の高いコンサートを実施するなど、両公演とも好評を博した。	練馬文化センターが大規模改修工事による休館のため、代替として大泉学園ホールを使用し、「フレッシュ名曲コンサート」(室内楽・1日2公演)を実施した。フランス音楽、ドイツ音楽をテーマにするなどの工夫により好評を博し、昨年度よりも満足度が上がった。	練馬文化センターリニューアル記念「華麗なるガラ・コンサート」、「實川風ピアノ・リサイタル」、「フレッシュ名曲コンサート」を実施した。各公演ともに好評を博し、昨年度と同レベルの満足度を得ることができた。	

目標②	音楽を誰もが身近に楽しめる取組 拠点3ヵ所(5年度)、拠点4ヵ所(6年度)			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	2ヵ所	3ヵ所	4ヵ所	
実績	3ヵ所	3ヵ所	5ヵ所	
団体の達成 状況の評価	A 計画以上に進んだ	B 概ね計画どおり	A 計画以上に進んだ	
備考	生涯学習センター、関区民ホール、光が丘区民ホールで実施し、身近な場所で気軽に音楽を楽しむ機会を提供した。	石神井松の風文化公園管理棟、関区民ホール、光が丘区民ホールで実施し、引き続き身近な場所で気軽に音楽を楽しむ機会を提供した。	5年度に実施の3ヵ所に加え、大泉学園ホールと北町第二地区区民館で実施し、身近な場所で気軽に音楽を楽しむ機会を提供した。	

目標③-1	能・狂言公演の定期的な実施、子どもが能・狂言を体験する機会の提供(能・狂言公演)年間2公演			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	2公演	—	2公演	
実績	1公演	1公演	2公演	
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	大規模改修工事に伴い、練馬文化センターが10月15日より休館となったため、5月11日に1公演実施した。	大規模改修工事により5年度中は休館のため、実績はないが、能・狂言に関連する事業として、武蔵大学にて「伝統文化記録映画『野村万作から萬斎、裕基へ』上映会&トークショー」を開催し、定員を超える申込となるなど、好評を博した。	練馬文化センターリニューアル記念「狂言の会」と「能・狂言への誘い」の2公演を開催した。両公演ともにチケットは完売し、好評を博した。「能・狂言への誘い」では上演する作品を中心に、能楽の魅力を解説するプレ講座と、野村万作・萬斎の舞台写真のタペストリーを展示した写真展も実施した。	
目標③-2	能・狂言公演の定期的な実施、子どもが能・狂言を体験する機会の提供(学校への狂言師派遣事業・能楽師派遣事業)年間8校			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	10校	8校	8校	
実績	7校	8校	8校	
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、狂言師派遣事業は去年同様5校で実施。一方で、能楽師派遣事業を新たに開始し、2校にて実施した。	狂言師派遣事業は、昨年度より1校増え6校で実施。能楽師派遣事業は昨年同様に2校で実施した。引き続き子どもが能・狂言を体験する機会を提供した。	狂言師派遣事業は6校、能楽師派遣事業2校で、昨年度に引き続き子どもが能・狂言を体験する機会を提供した。	

目標④-1	ホール利用の促進(練馬文化センター大ホール) ホール稼働率78.0%			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	78.0%	—	78.0%	
実績	66.0%	—	72.0%	
団体の達成 状況の評価	C 計画どおりに進んでいない	—	B 概ね計画通り	
備考	練馬区方針に基づく新型コロナウイルス感染症対策を講じながら館運営を行ったが、出演者の罹患や学校関係のキャンセル等により目標には至らなかった。なお、稼働率は大規模改修工事による休館のため、10月15日までのものである。	大規模改修工事により5年度中は休館のため、実績はなし。	大規模改修工事が終了し、令和6年5月1日から利用を再開した。改修工事後ではあったが概ね再開前の稼働率に戻った。	

目標④-2	ホール利用の促進(練馬文化センター小ホール) ホール稼働率84.0%			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	84.0%	—	84.0%	
実績	72.0%	—	72.0%	
団体の達成 状況の評価	C 計画どおりに進んでいない	—	C 計画どおりに進んでいない	
備考	練馬区方針に基づく新型コロナウイルス感染症対策を講じながら館運営を行ったが、出演者の罹患や学校関係のキャンセル等により目標には至らなかった。なお、稼働率は大規模改修工事による休館のため、10月15日までのものである。	大規模改修工事により5年度中は休館のため、実績はなし。	大規模改修工事が終了し、令和6年5月1日から利用を再開した。改修工事後ではあったが概ね再開前の稼働率に戻った。	

目標④-3	ホール利用の促進(大泉学園ホール) ホール稼働率93.0%			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	93.0%	93.0%	93.0%	
実績	87.0%	88.0%	91.0%	
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	出演者やスタッフの新型コロナウイルス感染症罹患によるキャンセル等があったが、令和元年度実績程度の稼働率まで回復した。	全体の稼働率は88%であったが、土日祝日利用の稼働率は96%と高い利用となり、昨年度を上回る稼働率となった。	全体の稼働率は91%であったが、土日祝日利用の稼働率は98%と高い利用となり、昨年度を上回る稼働率となった。	

取組内容の評価(令和5年度)	
団体	大規模改修工事により文化センターは休館となったが、代替として大泉学園ホールでのクラシックコンサートや武蔵大学での能・狂言に関連する映画上映会・トークショーを実施したほか、引き続き音楽を誰もが身近に楽しめる機会を提供する拠点事業や学校への狂言師・能楽師の派遣事業を行うなど、できる限り質の高いイベントを実施した。文化センターの大規模改修工事については、所管課と情報共有を行い、工事の進捗状況を把握し、再開後の施設運営等の準備を着実に進めた。大泉学園ホールの稼働率については、全体で88%であったが、土日祝日利用の稼働率は96%と高い利用となった。引き続き、利用促進に向けて取り組み、稼働率の向上を図っていく。
事業 所管課	文化センターが休館中であっても、大泉学園ホールでのクラシックコンサートや武蔵大学での映画上映会・トークショーを実現し、好評を博したことを評価する。あわせて、区内のホール等を活用した、身近に音楽を楽しめる機会の提供や、狂言師・能楽師派遣事業などの取組を着実に進めた。また文化センターの改修工事にあたっては、区との密接な連携により開館準備に努め、遅滞なく再開に向けた準備を整え、リニューアル記念事業の実施につなげたことを評価する。
取組内容の評価(総合評価)	
団体	文化センターのリニューアル記念公演として、質の高いクラシックコンサートと狂言公演を1公演ずつ実施し、どちらも好評を博した。質の高いクラシックコンサートについてはその他2公演を計画どおり実施した。能・狂言の公演についてはプレ講座・写真展をあわせて実施するなど、内容の充実に努めた。大規模改修工事が終了し、ホール等利用者に支障がないよう滞りなく準備を行い、当初の予定どおり5月1日から再開した。大泉学園ホールは91%の稼働率となり、ほぼ計画どおりの稼働率となった。
事業 所管課	文化センターのリニューアル記念事業として、質の高いクラシックコンサートおよび狂言公演をそれぞれ実施し、いずれも好評を博した。また、能・狂言公演に関連してプレ講座や写真展を実施するなど、文化理解を深める多角的な取組を展開した点を評価する。文化センターの改修工事にあたっては、区と連携し、利用者に支障が出ないよう着実に再開準備を進め、5月1日からの施設再開を滞りなく実現した。再開後の稼働率は目標には届かなかったものの、改修前の水準まで回復しており、引き続き稼働率が高い大泉学園ホールの運営とあわせて評価する。

事業2	美術館			
取組内容	①充実した展覧会と効果的な広報活動を実施することで来館者数の増加につなげる。 ②美術館活動の質を高めるため、収蔵コレクションを整理し、活用する。 ③再整備に向け、収蔵品の移転や休館中の事業活動について検討する。			
目標①	美術館の認知度の向上および来館者数増に向けた取組 来館者数110,000人			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	110,000人	110,000人	110,000人	
実績	78,254人	74,670人	73,324人	
団体の達成 状況の評価	C 計画どおりに進んでいない	C 計画どおりに進んでいない	B 概ね計画どおり	
備考	コロナ禍の影響もあり、来館者数は横ばいだった。展覧会のうち3つの企画展については、いずれもメディアに取り上げられ、日本の中のマネ展は(一社)日本アート保存協会の秀逸企画賞を受賞するなど、注目度の高い展覧会となった。広報についても、SNSだけでなく、新たにGoogle広告を実施するなど、積極的に取り組んだ。	区の「ねりま推し」の牧野富太郎に合わせた「植物と歩く」展など、当館独自の企画性に富んだ5つの展覧会を開催した。若年層向けの展覧会動画の作成やチラシの新たな配架先の開拓など、展覧会のテーマに合わせて興味・関心のある層へのPRに取り組んだ。 来館者数は減少してしまっただが、現代アート「宇川直宏展」では、初めて美術館に訪れた方や若年層を中心とした新たな客層の来館にはつながった。	現代美術家の三島喜美代や建築家の平田晃久の展覧会など、当館独自の企画展で約60,000人来館するなど好評を博した。 (収蔵品整理のため実施できなかった区立小中学校作品展など、例年の来館者数を合算すると約100,000人となった。)	
目標②-1	収蔵コレクションの整理・活用(収蔵コレクションの整理)			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	検討	実施	実施	
実績	検討	実施	実施	
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	美術館リニューアルに合わせたデータベースの更新に向け、収蔵庫の整理に着手した。	引き続き美術館リニューアルに向けて、収蔵作品のデジタル画像の整理を行った。	美術館リニューアルに向けて、収蔵作品移転作業に伴い、作品の整理および撮影を実施した。	

目標②-2	収蔵コレクションの整理・活用(収蔵コレクションを活用した展覧会の開催) 展覧会の開催2回			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	2回	2回	2回	
実績	2回	3回	2回	
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画どおり	A 計画以上に進んだ	B 概ね計画どおり	
備考	「時代を映す絵画たち」、「平子雄一×練馬区立美術館コレクション」を開催。現代作家とのコラボレーションなど、収蔵作品を活用する新たな取組を行った。	「大沢昌助展」、「植物と歩く」展、「古賀忠雄展」の3つの展覧会において、収蔵コレクションを活用し、多彩なコレクションを紹介した。	観覧者数が10,000人を超えた「野見山暁治」展や、「トーク・トーク」の2つの展覧会において、収蔵コレクションを活用・紹介し、好評を博した。	

目標③	休館中の事業活動等の検討			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	—	検討	検討	
実績	—	検討	検討	
団体の達成 状況の評価	—	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	—	休館中の事業活動等について研究・検討し、区と協議を開始した。	休館中の事業活動等について区と協議し、休館中もアートを身近に感じてもらえるよう、7年度事業の事業計画を策定した。	

取組内容の評価(令和5年度)	
団体	区の‘ねりま推し’の牧野富太郎に合わせた「植物と歩く」展など、当館独自の企画性に富んだ5つの展覧会を開催できた。その評価として、「大沢昌助展」での芸術文化振興基金などの助成金の獲得や「宇川直宏展」をはじめとして新聞や雑誌などの各種メディアで多く取り上げられた。また、現代アート「宇川直宏展」では、初めて美術館に訪れた方や若年層を中心とした新たな客層の来館につながった。しかし従来の来館者層の集客がふるわず、来館者数目標には達しなかった。 引き続き集客性の高い企画とともに質の高い独自性のある企画を組み合わせ、展覧会ごとに広報計画を立て、より効果的な広報を早期から実施するなど、広報活動を充実させ来館者数の増を目指す。 再整備後のアーカイブの構築・活用のため、収蔵作品のデジタル画像の整理を行っている。併せて再整備に向けて休館中の事業活動等の研究・検討を開始した。
事業所管課	企画性に富んだ展覧会の実施と同時に、企画ごとに興味関心のある客層に合わせて広報物の配架先を開拓するなどの工夫を行い、若年層を中心とした新しい客層の獲得につなげた。 また、3つの展覧会で収蔵コレクションを活用し広く周知を図るとともに、収蔵作品のデジタル画像の整理に取り組み、収蔵コレクションの整理・活用を精力的に進めている。 美術館の再整備に向け、区との休館中の活動の協議・検討を進めるとともに、収蔵作品のデジタル画像の活用の研究も適切に取り組んでいる。
取組内容の評価(総合評価)	
団体	日本画の「池上秀畝」展や現代美術の「三島喜美代」展、現代建築の「平田晃久」展など独自の切り口による様々なジャンルの展覧会に加えて、練馬区ゆかりの作家「野見山暁治」展や植物をテーマに企画した「植物と歩く」展などの収蔵品を活用した展覧会を企画し、これまでの実績と今後の活動を見据えた当館ならではの企画性に富んだ展覧会を開催した。彫刻・工芸系のギャラリーや建築系大学へのチラシ配布など、展覧会の内容に合わせた広報活動を試み、若年層を中心とした新たな客層の来館ならびにテレビや新聞、雑誌などの各種メディアにて多く取り上げられた。また、芸術文化振興基金や野村財団、タカシマヤ文化基金などの助成対象となり、注目を集めた。 令和6年度後半からは美術館再整備に向けた収蔵作品移転作業にて、収蔵作品の撮影を開始。休館中の事業活動等について区と協議し、休館中もアートを身近に感じてもらえるよう、7年度事業の事業計画を策定した。
事業所管課	独自の切り口による企画性に富んだ展覧会を開催するとともに、広報に係る新たな取組により、メディア露出の増加と新たな客層の獲得を実現した。加えて、複数の助成金を得たことを通じて、区立美術館が取り組む企画の社会的・客観的な評価の高さを示した。 また、収蔵品の整理を進めるとともに、地域ゆかりの作家のコレクション展を開催するなど、収蔵品の活用を通じて、美術館活動の質的向上につながっている。 再整備に向けた作品の整理・撮影を精力的に進めるほか、休館中もアートに触れる機会を提供するため、事業の拡充に向けた検討を着実に進めている点を評価する。

事業3	石神井公園ふるさと文化館			
取組内容	①展覧会、各種事業の内容を充実し、魅力をアップし、満足度を高める。効果的な広報活動を行い、団体見学等を積極的に受け入れる。 ②館が所蔵するアニメ資料の活用や、区ゆかりの漫画家との連携事業の実施に向け、検討を進める。 収蔵資料の調査・研究を進め、企画展や常設展示で活用する。 収蔵資料の活用および館の知名度向上のため、他施設での展示を行う。			
目標①-1	来館者数増に向けた取組（来館者満足度） 来館者の満足度95.0%			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	95.0%	95.0%	95.0%	
実績	92.7%	94.4%	94.3%	
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	3つの企画展では、新出資料の展示など、館蔵資料を活用し満足度向上に努めた。「昭和初期の練馬ライフ」は8,000人近い観覧者を得るとともに、アンケートには「期待以上の展示だった」「練馬区の歴史がよくわかった」等の声が寄せられた。	「ナニコレ!?ねりまコレクション」展でクイズ形式で楽しみながら観覧してもらえよう展示を工夫した。また「産業で振り返る練馬の近代」展や「田中小実昌」展では新出資料を展示するなどの取組を行い、昨年度を上回る満足度となった。	「魔法の部屋 トリックアートの世界」展、「石神井ものがたり」展、「大漫会の漫画家たち」展、「子どもの頃に見た道具たち」展や、ワークショップ「やってみよう！プロの漫画家に教わる漫画教室」など、練馬区ならではの様々な企画を開催し、概ね計画どおりの満足度となった。	

目標①-2	来館者数増に向けた取組(来館者数) 来館者数206,000人			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	206,000人	206,000人	206,000人	
実績	158,162人	162,752人	191,933人	
団体の達成 状況の評価	C 計画どおりに進んでいない	C 計画どおりに進んでいない	B 概ね計画どおり	
備考	コロナ禍の中ではあったが、事業の中止等はなく、団体見学の入場者数が回復したことにより、来館者数は前年度よりも増加した。	館長のネットワークを活かした著名な漫画家によるデジタルスタンプラリーのほか、夏休みのクイズラリーや企画展でのキーワード探しなど、来館を促す取組を実施し、前年度よりも来館者数を増加させることができた。	「魔法の部屋 トリックアートの世界」展は来館者数が2万人を超え、常設展示室の来館者数も増えるなど施設の回遊や再来館につながった。また、スタンプラリーなどの企画の工夫により、昨年度に比べて大幅に来館者数を増加させることができた。	

目標①-3	来館者数増に向けた取組(団体見学等受入数) 受入数6,500人			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	—	6,500人	6,500人	
実績	—	6,659人	6,806人	
団体の達成 状況の評価	—	A 計画以上に進んだ	A 計画以上に進んだ	
備考	—	学校への働きかけにより、区立の全小学校が社会科見学で来館し、目標を上回った。	区立の全小学校が引き続き社会科見学で来館した。中学や高校、幼稚園・保育園などへの来館の働きかけも行い、昨年度より団体見学の来館者数を上回った。	

目標②-1	収蔵資料の積極的な活用(常設展示での活用に向けた調査・研究)			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	—	実施	実施	
実績	—	実施	実施	
団体の達成 状況の評価	—	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	—	収蔵資料を中心に企画した「産業で振り返る練馬の近代」展、「田中小実昌」展、「ナニコレ!?ねりまコレクション」展の調査・研究の成果を活かし、アニメ・漫画資料を含め約110点の収蔵資料を常設展示で活用した。	収蔵資料を中心に企画した「子どもの頃に見た道具たち」展、「石神井ものがたり」展などで調査・研究し、東武東上線開通110周年に関する資料を含めた約140点の収蔵資料などを常設展示で活用した。	

目標②-2	収蔵資料の積極的な活用(他施設での展示)			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	—	検討	実施	
実績	—	検討	検討・準備	
団体の達成 状況の評価	—	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	—	文化センターでの収蔵資料の活用を検討した。	文化センターでの収蔵資料展示を準備した。美術館の展示ケースを有効活用し、令和7年度に実施する。	

取組内容の評価(令和5年度)	
団体	子どもから大人まで楽しめる「紙のおもちゃがいっぱい 北原コレクション」展をはじめ、「ナニコレ!?ねりまコレクション」展ではクイズ形式で楽しみながら観覧してもらえるよう展示を工夫するなど、昨年度を上回る満足度が得られ、好評を博した。 全体の来館者数は目標には達しなかったが、団体見学受入数については、区立の全小学校が社会科見学で訪れ、目標を超える実績となった。今後もこのような取組を継続することで、さらなる満足度および来館者数増を目指す。 企画展の調査・研究成果を活かし、アニメ・漫画資料を含め約110点の収蔵資料を常設展示で活用した。また、文化センターでの収蔵資料展示を検討するなど、今後も引き続き収蔵資料の積極的な活用に向けて取り組んでいく。
事業 所管課	収蔵資料を活用した企画展「ナニコレ!?ねりまコレクション」でクイズ形式のキャプションや体験型展示を実施するなどの取組により、来館者の満足度は前年を上回った。あわせて、コロナ後の状況下で区立全小学校の社会科見学を受け入れたことなど、目標を達成したことを評価する。 また、5年度に就任した館長のネットワークを活かし、区ゆかりの漫画家との連携により、分室でのアニメ・漫画展示やデジタルスタンプラリーの実施につなげた点も高く評価する。
取組内容の評価(総合評価)	
団体	「紙のおもちゃがいっぱい 北原コレクション」展、「魔法の部屋 トリックアートの世界」展、「産業で振り返る練馬の近代」展、「石神井ものがたり」展、区ゆかりの漫画家と連携する「大漫会の漫画家たち」展、ワークショップ「やってみよう！プロの漫画家に教わる漫画教室」など、練馬区ならではの企画を実施した。また、展覧会ではクイズ形式で楽しみながら観覧してもらえるよう、展示を工夫し、キーワード探し・スタンプラリー等の実施により、概ね目標どおりの満足度が得られた。 全体の来館者数は目標には達しなかったが、団体見学受入数については、区立の全小学校が社会科見学で訪れ、目標を超える実績となった。また「石神井ものがたり」展でのスタンプラリーは、展覧会場と近隣施設、館内常設展示室との回遊を促すなど、今後もこのような取組を継続することで、さらなる満足度および来館者数増を目指す。 調査・研究成果を常設展示に活かし、アニメ・漫画資料などの収蔵資料を常設展示で活用した。また、文化センターでの収蔵資料展示を準備し、7年度に展示する。今後も引き続き収蔵資料の積極的な活用に向けて取り組んでいく。
事業 所管課	企画展ではクイズ形式や体験型展示を取り入れる等、誰もが楽しめるよう工夫したほか、地域に根ざした館の特性を活かした独自の企画により、来館者の満足度を高めた。また、館長のネットワークを活かし、区ゆかりの漫画家と連携した特別展や漫画教室を実施するなど、新しい客層の増加につなげていることを評価する。 あわせて、区立全小学校の社会科見学の受け入れに加えて、中学校や高校、幼稚園等への来館の働きかけにより、目標を上回る成果をあげている。 これらの取組が功を奏し、令和6年度には来館者数がコロナ前の水準に戻るなど、成果をあげたことを高く評価する。

財務・組織	事務局(協会本部)
取組内容	①令和3年度に策定した人材育成方針に基づき、長期的視野に立った人材育成を実施する。 ②事務局体制の強化を受けて、事務局が各館を支える具体的な体制を構築する。協会企画戦略会議を引き続き実施し、外部有識者の知見等を協会運営に活用する。 ③連携事業やユニバーサルデザイン(UD)等、協会全体で取り組むべき共通テーマについて、組織を横断して一体的・積極的に取り組む。 ④収益事業を引き続き実施するとともに、自主財源で行う事業実施のための更なる基盤づくりとして、補助金・助成金、寄付金等の獲得に向けた方策を検討する。

目標①	長期的視点に立った人材育成(長期派遣研修の実施)			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	—	実施	実施	
実績	—	実施	実施	
団体の達成 状況の評価	—	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	—	文化・生涯学習課に1名、美術館再整備担当課へ2名職員派遣を行った。幅広い視野や知識の習得とともに、情報共有の強化などにより区と協会の円滑な連携につながっている。	文化・生涯学習課に2名、美術館再整備担当課へ1名職員派遣を行った。幅広い視野や知識の習得とともに、情報共有の強化などにより区と協会の円滑な連携につながっている。	

目標②-1	組織体制の強化(危機管理体制の整備)			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	—	組織的な連絡体制の整備	組織的な訓練の実施	
実績	—	組織的な連絡体制の整備・訓練の実施	組織的な訓練の実施	
団体の達成 状況の評価	—	A 計画以上に進んだ	B 概ね計画どおり	
備考	—	緊急時に各施設と事務局から区へ確実かつ速やかに連絡・報告できるよう、2ラインでの連絡体制に見直した。区の震災訓練にあわせて、所管課も参加して上記体制による訓練を実施した。	区と調整のうえ、区の風水害訓練、震災訓練に併せて事務局の訓練を実施した。風水害訓練では台風接近時タイムラインの情報共有を行い、震災訓練では例年通りマニュアルに基づいて点検した内容を各施設より報告してもらった。	

目標②-2	組織体制の強化(協会企画戦略会議の実施回数) 実施回数 年3回			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	—	3回	3回	
実績	—	3回	3回	
団体の達成 状況の評価	—	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	—	文化政策やアートマネジメントの専門家とホール、美術館、博物館のユニバーサルデザインをテーマに意見交換した。	文化政策やアートマネジメントの専門家と外部資金の獲得やデジタルアーカイブをテーマに意見交換した。外部資金の獲得について、協会企画戦略会議に替えて、外部資金に関するPTで、エグゼクティブアドバイザーを交えた検討を行った。	

目標③	共通テーマに対する一体的な取組(UDへの取組)			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	—	ホームページの英語対応の拡充	マニュアルの整備	
実績	—	ホームページの英語対応の拡充	事例集シートの作成 ロードマップの検討	
団体の達成 状況の評価	—	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	—	公演情報のページに英語自動翻訳機能を追加する改修に取り組んだ。そのほか、「ねりぶん音楽便」での聴覚障害者への鑑賞サポート機器の導入、「古賀忠雄展」での触れることができる作品の展示など、ユニバーサルデザインの推進に取り組んだ。	各施設で行われた事例を共有できるシートを作成した。また、誰もが鑑賞を楽しむためのロードマップの作成の検討を開始した。また、リラックス・パフォーマンスでは、事前の職員研修や、網膜投影視覚支援機器「レティッサオンハンド」が利用できる鑑賞会の実施など、ユニバーサルデザインの推進に取り組んだ。	

目標④	外部資金の獲得(方策の検討)			
年度別 取組計画	4年度	5年度	6年度	年度
	—	検討	検討	
実績	—	検討	検討	
団体の達成 状況の評価	—	B 概ね計画どおり	B 概ね計画どおり	
備考	—	各施設の事業等への助成金に関する情報収集や申請時のサポートなどにより、美術館展覧会など5件の助成金・補助金(4,473千円)を得た。具体的な外部資金の獲得の方策の検討のため、来年度からPTを設置し検討を行う。	各施設の事業等への助成金に関する情報収集や申請時のサポートなどにより、美術館展覧会など4件の助成金・補助金(3,630千円)を得た。具体的な外部資金の獲得の方策の検討のため、PTを設置し、検討を開始した。	

取組内容の評価(令和5年度)	
団体	文化・生涯学習課等への職員の長期派遣研修は、広い視野や知識の習得とともに、情報共有の強化などにより区と協会の円滑な連携につながっている。 緊急時に各施設と事務局から区へ確実かつ速やかに連絡・報告できるよう、2ラインでの連絡体制に見直し、さらに訓練により実効性を検証した。 公演情報のホームページに英語自動翻訳機能を追加する改修などにより、ユニバーサルデザインの推進に取り組んだ。 各施設の事業等への助成金に関する情報収集や申請時のサポートなどにより、美術館展覧会など5件の助成金・補助金を得ることができた。 引き続き、これらの取組により、さらなる協会の運営および体制の強化を図っていく。
事業 所管課	区への職員派遣などの手法による長期的視点に立った人材育成や、各施設のホームページでの英語対応の拡充を図った。危機管理の面でも、実態に即した訓練を行い、幅広く協会の体制強化に努めた。 また、5件の助成金獲得など、事務局が各施設をサポートし、経営面での新たな取組目標を達成できた点を高く評価する。
取組内容の評価(総合評価)	
団体	長期派遣研修による人材育成や、危機管理などについて、5年度から継続して計画的に実施・推進することで、協会事務局の運営および組織体制に係る取組について概ね計画通りに達成できた。また、今後はユニバーサルデザインおよび外部資金獲得への取組を具体化し、機器の導入や資金獲得事業の実施について検討を行っていく。新たな公益法人制度、公益信託制度導入への課題に対応するため、新経営計画を着実に推進していく。
事業 所管課	組織の将来を見据えた方策として、区への派遣研修を継続して実施し、着実に人材育成を推進している。危機管理の面でも、区と連携して実態に即した訓練を継続して実施し、マニュアル等の改善に努めている。 組織横断的なメンバーによるUDおよび外部資金調達のPTを設置して検討を進め、試行的なUD機器の導入や、各年での助成金獲得など具体的な成果を上げている点を高く評価する。